2024　山寺通信　4月

今回は、陶器と磁器の違いなど、比較的わかっているようで分かり易く説明できる人が少ない焼き物の知識についてです。急須でも土瓶でもその２種類が一般的に存在しています。大雑把に言うと産地が分かれています。それは原料の違いがあります。簡単に分けると粘土と石の違いガラスになる成分と量の違いです。磁器の原料としてカオリンがあります。中国の磁器にはカオリンが多く入っています。又その陶土の名前も江西省景徳鎮の高嶺(カオリン)村の地名から来ています。カオリンは、焼成していくとガラス状になり白色になります。ガラスは水分を通しません。それに対していわゆる粘土は、多孔質などで(顕微鏡で確認)、水を入れると漏れます。そのため食器などは釉薬を掛けます。日本の有田焼は、中世からヨーロッパでは人気がありました。長崎で天草陶石が発見されたことから朝鮮の陶工の力を借りて発展してきました。そして江戸時代では、柿右衛門窯での綺麗な赤土文様で有名になりました。日本の磁器は絵の文様が競われ、釉薬や絵の具も研究されました。他に京都や九谷焼でもカオリンを考案して磁器を造り始めました。ヨーロッパでは、「マイセン」が有名です。

宜興茶壺

宜興茶壺

宜興茶壺

この跡は、右の画像の様に窯から出した製品をつかんで水に浸けて発色を調整した後、冷却後についたものです。多かれ少なかれつきます。

当社の２０年前に仕入れた中国茶器で、宜興の紫砂で作られた茶壺です。